
殺し屋

EARTH

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

殺し屋

【コード】

N8605X

【作者名】

EARTH

【あらすじ】

期待はずれかもしれませんが

ポタ…ポタ…

紅い水溜まりを歩く。

静かだ…静かすぎる。私以外に音源が無い空間。

「ふう」

ふと立ち止まる。

景色をぐるりと見渡してまた前を向く。

寂しい、そんな気持ち自身が自身の深いところから吹き出してくる感覚に眼を閉じた。

私は殺し屋、と呼ばれている職業らしい。パパはいる、ママは殺された、兄弟は年の離れたお兄ちゃんが一人だけ、でもみんな血は繋がっていない。パパは私と終夜お兄ちゃんをつかってお金儲けをしている。

「命」
「めい」

優しく通る声…終夜お兄ちゃんだ！

さっきまで感じていた寂しさはどこかへ飛ばされ、私の心は温かさに支配された。

「お兄ちゃあああ！」

ズテッ

「命！」

水溜まりに足をとられた。

ジンと痛む顔、しかしめげずにお兄ちゃんの方を向くとそのまま笑った。

「今日もいっぱい殺したよ！」

お兄ちゃんは苦笑いしながらも私によってきて頭を撫でてくれた。

「よくがんばりました」

「うん、だからおんぶ」

「やだ」

やだ。かわいいお兄ちゃん。

もう今年で成人なのにやだだっ！

「じゃあ駅前のアイス買って！」

やだに免じておんぶは諦め取り合えずアイスをねだる。

「うーん…帰ってからショートケーキつくってあげるよ？」

「やった！大好きお兄ちゃん！早く家行こ！」

「やべ…俺ロリに目覚めそう…」

「えっ？」

ロリってなんだろ！お人形さんかな？

まあそれは置いておいて、この世で一番美味しいケーキを焼けるお

兄ちゃん。

そのお兄ちゃんの気が変わらないうちに私は飛び起きて走り出した。

「あ…またこけ、」

「あっ！」

ズテッ

「」
「」

(後書き)

終わりです

ゆるしてください(汗)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8605x/>

殺し屋

2011年10月23日20時16分発行